

（本文、前ページより続）
省エネ照明の主流となりつつある発光ダイオード（LED）にしても、取り付け用金具から電子部品、反射材までめっきが活用されている。

極端な話をすれば、テレビやパソコン、各種モバイル機器まで、昨今は軽くて薄くて柔軟さを高める方向へと向いているが、これらの材料の機能化を図る手段としては今なおめっきが優れており、発展の余地もまだ大きい。

長年、産業技術を先取りしてきた米国の巨大企業でもめっきにかかわる研究をさらに加速していると話もあり、当分はその重要性は続きそう。

品質そこそこでOK？

もちろん、不安材料がないわけではない。電力など燃原料や材料の先行きにつきまとう不透明感、さらにグローバル化の進んだ産業界の変化は激しく、液晶テレビのように、市場が急な変化をみせることもあり得る。

また、先頃の薄型テレビをめぐる状況に代表されるように、世界市場が求める方向と、高品質で多機能を求めているハイエンドを追求しつづけてきた日本のモノづくりの方向性がかい離しつつあることも気がかりだ。

これまで、日本の企業は先端の分野にハイテクで応えてきた。めっきについても、より微細で高品質などということが究極の目標として追求されてきた。ところが、市場の大勢が最高の技術にあまりこだわらなくなれば、品質はそこそこで購入しやすい製品ばかりを求める傾向が今以上に強まれば、「ハイエンドな技術はあまり必要ないことになってしまう」（藤原裕大阪市立工業研究所電子材料研究部長）。そしてそれほど高い技術を要しないなら、日本で加工する意味もなくなる。

高品質の実現より、求めるレベルの製品の製造に最も適し、効率化できる技術が主流となり、そのスタンダードをいち早く確立できたところが、勝者となる。

先行きに不安材料 市場の変化 注視を

1タが結局VHSに主導権争いで敗れたような話が、いつかめっきの世界でも起こりかねないというわけ

ただ、めっきやそれにかかわる技術の研究は盛んで、また情報収集に向けた動きも以前にも増して活発化しているといわれる。大阪市立工業研究所が7月11、12日に予定している「初心者のための無機材料分析・評価技術実習セミナー」もわずかな時間で定員が埋まってしまったという。

環境や人にやさしいめっきの研究も熱心に行われており、環境対応型めっき、クロムフリーめっきなどの研究のほか、EUVを中心にしたニッケルアルレーギーに対する規制がはじまったこともあって、性能は落とさず、アルレーギーをおこなないめっきの開発も各地の公設試をはじめ企業や研究機関で熱心に行われている。

むろん、高度なめっき技術がすぐに必要なとなるというわけではなく、仮定にすぎないが、もし大きな流れに巻き込まれれば、一企業のレベルでは抗しがたい。我が国のモノづくりを長年にわたって支え、蓄積されてきためっきにかかわる技術が力を失わないよう、行政、学会、産業界の力を合わせた取り組みに期待したい。

広がる役割、高度化する機能

めっき技術

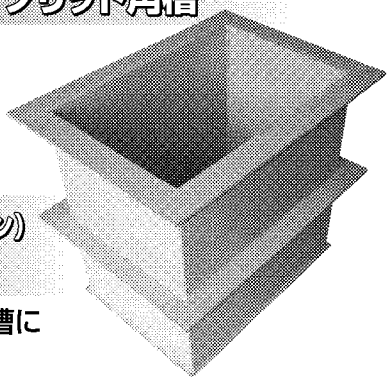
金属表面処理槽到新素材登場!!

小型槽には…。

P.P (ポリプロピレン) ソリッド角槽

メッキ、電解槽に最適!

■特徴: 耐酸、耐アルカリ性、
耐熱性80℃
超軽量性
リサイクル性



PVDF (フッ化ビニリデン) ソリッド角槽

クロムメッキ、電解研磨槽に
超精密メッキに!

■特徴: 耐酸、耐酸化性液、耐溶剤、超純性、耐熱120℃

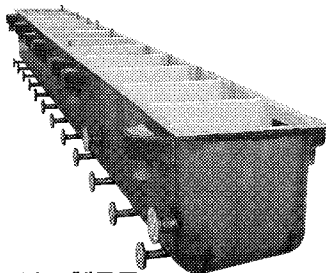
理想のプラント創りをめざす
イトガワ 糸川産業株式会社



ホームページアドレス <http://www.itogawa.co.jp> E-mail: office@itogawa.co.jp

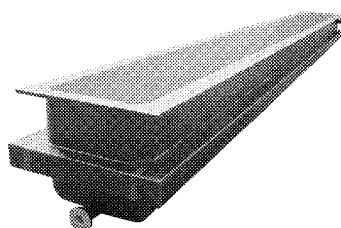
大型槽には…。

**PVDF (フッ化ビニリデン) と
FRPのクラッド
TEFLAM-D**



チタン製品用
硝酸酸洗槽

**PP (ポリプロピレン) と
FRPのクラッド
i-clad-P**



アルミエッチング槽
(強アルカリ浴)

本社 大阪市西成区岸里1丁目3-29 〒557-0041
TEL (06) 6658-0001 (代) FAX (06) 6658-5443
工場 狭山工場・安富工場・佐用工場・赤穂工場